



7/14

第13回氷川町ふれあい卓球大会

竜北体育センターにおいて、第13回氷川町ふれあい卓球大会が行われ、町内外から卓球愛好者28人が参加しました。各クラス別にダブルスの試合を行い、熱戦が繰り広げられました。

大会結果	
Aクラス	佐々木 貞行 (東上宮) ・ 青木 克裕 (熊本市) ペア
Bクラス	泉 裕貴 (上鹿島) ・ 山下 とよこ (法道寺) ペア



▲熱戦の連続！

7/19

くまもとジャンプアップ『跳』トーク ～八代地域編～

県民対話事業「くまもとジャンプアップ『跳』トーク」が八代市坂本町で行われ、蒲島知事と八代地域で観光地域づくり、農業などに取り組む7人が意見交換しました。

氷川町からは、耕作放棄地を減らすことを目的に子どもたちと活動している(株)氷川のぎろっちょの事務局長である岩本剛さん(早尾南)と、カラフルトマトを栽培し全国に発信しているミヤザキファームの宮崎修太さん(西網道)が参加し、蒲島知事と氷川町の未来について語り合いました。

【岩本剛さん】(株式会社 氷川のぎろっちょ 事務局長)

子どもたちの人材育成に取り組んで今年で9年目。小中高生62人が活動している。

町の課題解決探求コースを立ち上げた。町歩きを通して課題を検討し町長の立場で考え、耕作放棄地の解消に向けて現在取り組んでいる。

目標は2030年。このような学びを経験した子どもたちが地元に残って、産業と人材育成に携わる「地域マネージャー」となしてほしい。

【蒲島知事】

非常に感銘を受けた。素晴らしい体験であり、子どもたちの心の発達にも効果があると思う。

体験することで、地域の魅力を自ら知ることになり、将来的には地域のために頑張ろうと意欲を持った子どもたちが帰ってくるということにつながるなど、とても夢がある取り組み。

【宮崎修太さん】(ミヤザキファーム 代表)

就農して今年で11年目。就農と同時に4Hクラブ(農業青年クラブ)に所属。平成27、28年度は県の4Hクラブの会長を務め、県内外の農業者とのつながりができた。また、知事が塾長を務める農業経営塾の4期生であり、経営者としての考えを学ぶことができた。熊本県は若い農業者に勉強する機会を与えてくれていると感じる。

最近は地元の伝統家具屋の展示会に参加したり、製油会社と共同でレシピを考えたり、業種を超えた取り組みがこれから大事になってくる。クルーズ船もそうだが、農業がいい形でからんでいければ、そのつなぎ役を担っていきたい。

カラフルトマトの業界で「宝石とまと」の知名度を日本一にしたい。それを先々、氷川町で観光農園などで人を呼び込むことをしたい。

【蒲島知事】

世界と戦える熊本の農業を実現するため農業経営塾を立ち上げた。そのつながりも生かし、塾生が頑張っていることに嬉しく思う。

八代の農地は恵まれている。クルーズ船へのビジネスもできると感じるし、観光農園など、チャレンジングな若い農業をやってほしい。氷川の農産物で世界とつながり、観光農園もものすごく生きてくると思う。



▲岩本 剛さん



▲宮崎修太さん

7/19・28

きれいな水をみんな下守る 水質浄化活動（東網道地区・鹿島地区）

東網道地区と鹿島地区において、EM菌団子を使った水質浄化活動が行われ、子ども会など地区住民が参加しました。EM菌団子・発酵液は、水をきれいにするほか、食器洗いや洗濯、掃除などに使用すると汚れ落ちが良くなる効果があります。東網道地区では15年以上前から、鹿島地区では4年前から子ども会や婦人会などが中心となって水をきれいにする取り組みを行っています。団子作りでは、水質の浄化作用があるEM菌を土に混ぜて手で丸めて作りました。

その後、菌を繁殖させるため約2週間乾燥させてから地区の水路などへ投入しました。



▲団子作り（東網道地区）



▲団子作り（鹿島地区）

7/28

みんなで心をひとつに ～町民体育祭夏季大会（ふらばーるバレー）～

竜北体育センターにおいて、第14回町民体育祭夏季大会（ふらばーるバレー）を開催しました。ボールが予想外の方向に跳ねることから珍プレーや好プレーが続出し、歓声と笑い声に包まれ、応援にも熱が入りました。



▲ナイスレシーブ！



▲優勝した西上宮地区館

大会結果

優勝	西上宮	地区館
準優勝	鹿島	地区館
第3位	町	地区館
第4位	北鹿野	地区館

8/2

立神峡の安全を祈って

立神峡の龍神橋前にある地藏堂が古くなり、修繕したことから、入魂式が行われました。

この地藏様は50年以上前に稲津チヨノさん（八代市鏡町）が立神峡の安全を祈念して寄贈したもので、今回は息子の藤田昌彦さんが修繕され、これからの安全を祈願しました。



▲安全を祈って

8/3

八代・天草架橋 早期実現を！

鏡文化センターにおいて、県南・天草地域をつなぐ八代・天草架橋の早期実現を目指す総決起大会が6年ぶりに開催され、約700人が参加し、地元の期待と熱意を広く訴えました。

特別講演では、沖縄県宮古島市伊良部商工会の大浦貞治会長が、伊良部大橋（3.5km）実現の経緯について語られました。

また、架橋構想の名称を今後、「八代・天草シーライン」とする特別決議も採択されました。



▲早期実現に向けてガンバロウ！